





# たくさんの「ありがとう」を伝えに

## 「レデンプトール会感謝の旅」感想文

### 巡礼の恵みを生かしたい

徳之島教会 順 秀子

感謝の一言に尽きます。夢のような巡礼の旅を終え、無事帰宅できたことにホッとしています。すばらしい体験がたくさんあり、毎日の中に感動がありました。司教様をはじめ末吉神父様、お二人のシスターの方々から感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとうございます。

の再会。涙をポロポロ流されての歓迎、神父様の口からは日本語はすぐには出てこなかったけれど、時間の経過とともに思い出されたようでした。貴重な出会いには涙あり、笑いありでお別れました。

二日目のレデンプトール会本部の見学、お墓参り。念願叶って重荷を降ろした

### ハヌス神父様との再会の喜び

石川県 桑原了子

出発時点から足に痛みがあった私はとても不安でしたが、参加されたみんなの心はひとつで、神様の家族を感謝し、何の心配もない楽しい旅行でした。

バスでの出発時にロザリオのお祈り一環、1日目のハヌス神父様との久しぶり

遠い石川の地で40年あまり暮らしています私が今回の「レデンプトール会感謝の旅」に参加できたということはタマタマと

思っていました。たが、お誘いの声かけこそが神様のお導きであり、大きな恵みであつたと今更ながら感じてお

ります。ドイツは初めて訪問する国で、ミュンヘンの町に降り立った時の緑の美しさ、少し移動する

とグリムの昔話を彷彿させるような景色と、初めて見る一面満開を

気持ちになりました。この二日間でドイツの目的は十分で満足でした。ホテルも素晴らしく、ゆつたりとしていてリッチな気分の宿泊。名所ある観光地の見学などとても充実した内容の企画でした。

帰国後、徳之島でこの体験をどのように伝えようかと悩んでいたら、突然、報告の時間が来て「いつも準備していなさい」とはこのことかと思うことでした。心散らされた人を集め、心

ひとつに分かち合うことができたこと、弱い自分を見せることによって人の心の温かさ、優しさに触れ、神様が私に何を求めているのかと考えるがらう。

そこで、徳之島では28日(日)熊本、大分への義援金のためにバザーを開催し、天気にも恵まれ成功でした。

高齢化が進み、どこの教会でも悩みは同じでした。信仰の喜び、神様の愛を伝えるために、もっともつと頑張らねばと思つています。夫婦で参加できたことを感謝し、一緒にできた方々へありがとうの思いを込めて、いつの日か語り合いたいと思うことです。心から恵みに感謝を込めて。

司教様のお言葉通り、時々ビデオレターなどで記憶を刺激させてあげるのも一考かと思いましたが、ぜひ、実現できますように。昼食も一緒に取り、お会いできたことへの感謝のミサは忘れられないものとなりました。

ハヌス神父様をはじめ、次の日の巡礼先のレデンプトール修道会本部訪問で、多くの亡くなられた神父様方のお墓参りをさせてもらいました。遠い異国の小さい貧しい鹿児島で、全生涯をかけて神様の愛の

この度は司教様のおほからいにより、ハヌス神父様のお見舞いとフリヂェル神父様、レヒナ神父様のお墓参りの巡礼に参加できましたこと、心から感謝申し上げます。

### 徳之島の恩人の国ドイツ

徳之島教会 浜田 スミ子

和30年代の頃、戦後の復興も本土より10年以上も遅れていると言われていた徳之島、電気も水道も不足する不便な生活の中で、私たちが信仰の恵みを伝えてくださった神父様方でした。

またドイツの方々からの

福音を広め、私たちを導いてくださった神父様方に、改めて感謝すると共に今回の巡礼に参加することができた幸福をしみじみと感じております。

今回の巡礼先で、もう一つ忘れられない場所はダツハウ強制収容所とそこに隣接して創立された女子カナル会修道院訪問でした。

同じカルメル会である主任神父様と面識があるという偶然に驚き、忘れられない思い出となりました。

ミュンヘン市内の教会巡りももつともつと時間があればという思いを残し一週間の日々があつたという間に終わってしまった。今回の旅を企画運営してくださった司教様、通訳してくださったレデンプトール会の神父様、シスター方、一週間共に過ごした12人の皆様方にお礼と神様のお恵みがありますようにとお祈り申し上げます。



ダツハウの収容所ではカルメル会修道院でミサにあらずかり、日本人のシスターもお会いできました。この収容所にはユダヤ人だけでなく、ドイツ人も大勢いたということに驚きました。

たくさんの恵みと喜び、何よりも天の御父に守られているという実感にあふれた旅でした。心からの感謝です。



ハヌス神父様を囲んで



# 祈りに満ちた巡礼の旅を終えて

徳之島教会 向井康美

このたびは、神父様方への感謝のための巡礼ということ、主人と共に参加させて頂きました。

ハヌス神父様を訪問した際に、皆様のとて嬉しうなお姿を見て、またお墓参りを通して、神父様方のこれまでのご活躍や皆様との想い入れ、絆がどれほど深いものかと想像しておりました。ハヌス神父様の部屋には日本の国旗が飾られており、それがとても印象的でした。神父様のご多幸をお祈り致します。

私は、巡礼というものを初めて体験しました。人生の中で、こんなにたくさんお祈りやミサをしたことはありませんでした。一日の

訪れた教会や修道院では、その歴史を教えて頂いたり、建物の中の見学など貴重な体験をさせて頂きました。また建物の絵や彫刻が素晴らしくとても感動しました。

## 司教執務室便り

### 奄美でのユーキヤット



先月八日土曜日午後六時、名瀬聖心教会二階の要理室に集まったのは高校一年生五人と支えの大人五人。奄美初のユーキヤット(若者用要理)のこと。前者は今年春の長崎巡礼に参加した五人で、大人五人は奄美の宣教を考える会の青年部と有志達。

発端となったのはマリア教会での堅信式。この子供たちが奄美でのユーキヤット生第一号になると主任司教に話して協力を仰いだのが今年の二月だったか。予定の初回は学校の行事と重なり青年部の数人だけになったがそれでも実施。いずれこの人たちがリーダーとなって島の若者たちの信仰養成に寄与してもらいたいと思っただけだ。

こうして、実質的な初回となった先月九日のブイジュ祭前日午後六時、支えの五人が待つ要理室に部活を終えた本命の五人が汗を拭き拭き次々と入ってきた。早速、入門として、「YOUCAT」ができ

ました。温かいおもてなしにも感謝の想いです。

この旅の間、とても心穏やかに過ごすことができました。ハプニングもありましたが、それも楽しめ、旅の思い出となり



## たくさんの感動をありがとう

谷山教会 東 正雄

お世話になった神父様、シスター、訪問先で出会った方々に感謝致します。そして、この巡礼で出会った皆様に、またいつかお会いできることを楽しみにしています。

まずこの計画をして下さった司教様に感謝申し上げます。お世話くださった末吉神父様、現地ではシスターモニカ、シスター澤のお二人に感謝いたします。

鹿兒島出発時は手続きに手間取りハラハラしましたが、なんとか無事に羽田に着き皆さんと合流してドイ

るまでの経緯を説明し、「私たちは何のためにこの世に存在しているの?」という最初の質問に入った。

高校時代、議論好きな友人から「神の存在を証明できるか」と聞かれて立ち往生した話をしたら興味深げな顔になった。何よりも感心したのは話を聞く態度の真剣さ。

「見えるものはすべて結果。このメカネケースはボクがここに置いたからここにある。だから、ボクのことを第一原因といえます。自然界の場合も同じ。だから、神さまは?」

「第一原因。」  
小さな声で答えが返ってきた。神さま第一原因という公式がすぐに頭に入ってきたらしい。理解力の深さにも感心した。

「神さまって何だと思う?」  
「?」  
「第一原因。なぜなら、...」  
あれから五十七年、休み時間に友達とそんな会話が生まれると楽しいなあと思つた。奄美の若者がくれた真夏の夜の夢。いや現実になつたらいい。

急な変化で、病気が急に進むと聞きますが、まさにそうかと思うことでした。でも素晴らしい環境の中で、シスターや神父様方の助けで、幸せそうで安心いたしました。どうぞいつまでもお元気で。帰りの巡礼の道も素晴らしかったです。この日の夕食は市内のレストランでいただきました。

三日目は早めの出発でガルス男子修道院と女子修道院訪問です。

早速、男子修道院では神父様の案内でお墓参りを。前管区長でしたミタマヤ神父様のお兄さんのお墓とボルス神父様、レヒナ神父様、フリチエル神父様の墓をそれぞれお参りしました。院内を見学し教会に入り説明をお聞きし、普段は入ることのできない祭壇下のお墓を見せていただきました。テレビでしか見たことのない所なので感動しました。司教様は昔の説教台に上がられてテストをされた。感動されていました。

五日目はノインシュパンシュタイン城見学です。しばらくバスが進むとハイジの世界でした。歌つたりして賑やかにになりました。お城に着くと雨になり、皆さんの人で賑やかになりました。まるでベルトコンベアに乗った気持ちでした。感動する間もないくらい

この国の人々はこういう静かな木々に囲まれた中で静かに祈り、神様と出会っているんですね。

13日、修道院の本部とお墓参り。

レヒナ神父さま、フリチエル神父のために祈りました。この修道院の聖堂で、お祈りに支えられて日本へと。鹿兒島教区はこの会場の神父様、シスター方で支えられているのです。感謝の気持ちで祈りました。その後、女子修道院へ。

14日、ダツハウの聖なる血カルメル修道院を訪問。1人の日本人シスターに案内していただき、ドイツで最初にできた強制収容所を

## レデンプートル会の心に触れた旅

紫原教会 平 志津子

レデンプートル会の神父様、シスター方が鹿兒島教区にいらして50年余り、ミューンヘンはどうな所だろうかとの思いで5月11日、飛び立ちました。徳之島、鹿兒島、熊本、石川、神奈川と15人の巡礼です。

12日、ハヌス神父様をお訪ねしました。元氣なお姿に安堵、日本語はお忘れのようでした。司教様がハヌス神父様の抱持をされた頃のお話に宣教熱意を感じさせられました。徳之島の方々がハヌス神父様へ来られない方のお祈りやお土産

ミサの後に美味しい昼食をいただきました。毎日感動でした。

女子修道院でもシスター方々が一生懸命おもてなしをして下さり、感謝でした。

四日目はテレビなどでよく出るアウシュビッツのことはなんとなく知っていましたが、ドイツ国内にはこんなにたくさんの施設があったことにびっくりでした。カルメル会のシスターが案内してくださり、また一緒に祈りもミサも捧げることができました。

パパ様が日本に来られた時に「戦争は人間の仕業です」とおっしゃったことが実感した一日でした。

五日目はノインシュパンシュタイン城見学です。しばらくバスが進むとハイジの世界でした。歌つたりして賑やかにになりました。お城に着くと雨になり、皆さんの人で賑やかになりました。まるでベルトコンベアに乗った気持ちでした。感動する間もないくらい

この国の人々はこういう静かな木々に囲まれた中で静かに祈り、神様と出会っているんですね。

13日、修道院の本部とお墓参り。

レヒナ神父さま、フリチエル神父のために祈りました。この修道院の聖堂で、お祈りに支えられて日本へと。鹿兒島教区はこの会場の神父様、シスター方で支えられているのです。感謝の気持ちで祈りました。その後、女子修道院へ。

14日、ダツハウの聖なる血カルメル修道院を訪問。1人の日本人シスターに案内していただき、ドイツで最初にできた強制収容所を

で、近くで昼食をして帰るとき小さなハプニングがあり、皆で祈つたりでした。何事もなくすみました。守護の天使に感謝。

素晴らしい二つの教会を見学しました。感動ばかりです。

今日はドイツ最後の日、ガイドさんと地下鉄に乗って市内見学です。中心地は観光客でいっぱいでした。ミュンヘンの始まりとか説明してくださり、教会でミサに与り、皆さんで昼食を頂いて自由行動を。それぞれでショッピングなど楽しみました。

またホテルに戻りバスで空港に。手続きも済みスムーズにいったので感謝でした。皆さん、本当にありがとうございました。皆さまの感動をありがとうございました。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。

16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまうました。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。



諏訪勝郎神学生の「僕の長崎への道」

日本二十六聖人の道を歩いて

(11)

3月7日(月)三原―西野:約26km

午前6時20分、ミサ。朝食後、短時間の作業。草刈りしたまま放置された草葉をワゴン車後部に積む。後日、アルナルド神父がゴミ集積所まで運ぶのだそう

午前8時50分、三原教会を発つ。

三原の市街地内は旧道を。定屋大橋に出、国道2号線を行く。

きょうは陽気がいい。暑い。半袖Tシャツ一枚だ。納所橋北詰めあたりで休息。旧道に入り本郷を通り、二本松古墳(宗永神社)で国道2号線に。汗だくで峠の登り坂を歩いていくと、畑仕事をしていた年配の男性に呼びとめられる。

「歩いとるんか?」「はい」「どこまで?」「西条を通って、広島に向かいます」「目的地は?広島?」「長崎」「へえー。どこから来た?」「京都」



西条本陣跡で

「京都」  
「ひやー、タフやねえ。おう、水を飲んでいっかんか?」  
「この峠を越えたら楽勝や。あとは下りやし、その先はしばらく平坦になるからな」  
ふたたび峠を登る。痛む左脚を知らず知らずかばつてか、右足の脛にも痛みが。頼む、保つてくれ。左右の足を運ぶ。峠を越えた。下り坂を両脚に用心しつつ、速度を上げて坂を滑降する車両に神

俳句

鹿児島純心 川上 和  
創立日のサンタ・マリアの  
初夏の風

短歌

鹿児島純心 川上 和  
マラッカに別れを告げしザ  
ビエルさまはるかな国の

「光」をめざし  
ザビエルさま苦難多き荒海  
をひたすら祈りヤジロウ励  
ます  
鳴池教会 前田儀子  
鮮やかに視界の象ひろがり  
て白内障の術後の日曜日  
先月号の訂正短歌  
雨止みて光射しそめ列福の  
ミサの祈りは深く胸にせま  
りぬ(前田様の短歌が6月  
号では「胸」が「脳」とな  
っておりまし)

経を尖らせながら、歩道も  
ないため車道を行く。心身  
ともに疲労困憊。いつも一  
時間半から二時間の間隔で  
休憩をとるが、このときは  
かりは一時間で。  
途中できょう、西条まで  
は無理と判断。竹原市西野  
町泊。

3月8日(火)西野―八本松:約20km

午前9時、出発。  
田万里川沿い、国道2号  
線を右手向こうに見はるか  
しながら、旧山陽道(田万  
里往還)を歩く。長閑な田  
舎道。  
堀坂道(高屋溝口への間  
道)あたりから登り道に。  
右手向こうの、国道2号線  
が葛折りに上昇するさまを  
見れば、またもしあれとい  
ずれ合流することを思え

朝から蝉が  
うるさく鳴い  
て、今年もま  
た沖繩・広  
島・長崎・敗  
戦と歴史をた  
どる夏が来ま  
した。今、与  
党自民党は憲  
法9条改正を  
見据えています。  
しかし、  
そもそもなぜ  
憲法改正した  
いのでしょ  
うか?「憲法が  
今の現実に合  
わないから?  
アメリカの押  
し付け憲法だ

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 8月号

「この憲法では日本を守れないから?」「日本カトリック司教協議会会長の高見三明大司教は、平和旬間にあたって7月12日の談話の中で、安倍晋三首相の「憲法9条に自衛隊の存在を明記したい」という考えに対して懸念を示しています。  
「これまで『自衛隊のため必要最小限度を越えない実力』を有する部隊と説明され、防衛予算や軍事行動に厳しい制約を課せられていた自衛隊は「軍隊」となり、『陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない』と定める第9条第2項が効力を失うことになり

ば、このやや急峻な傾斜も領ける。舗装さえしていなければ、その趣きは完全な山道である。  
山道の途中、せせらぎを聞きながら、足を休める。はや汗だくだが、きのうより気温は低いだろう。風が吹けば、汗が冷えて肌寒い。  
おやつとして、きのうの昼食の残りのクリームパンを頬張る。何気なく包装紙裏面の添加物一覧を見、呆然。何と数多の薬品であることか。  
これも物流ゆえだ。長持ちしなければ運べない。きのうの昼に食したサンドウイッチが、いまここで作られたばかり、出来たてほやほやと言わんばかりに装ったそれが、「姫路工場製造」とあって驚いたのを思い出した。他県から運んでくるのだ。僕たちは完全に牛耳られている。まるで囚人のごとく、高度に管理統制された産業システムに。坂道を登りきる。しばらくは国道を行く。

超恵寺あたりで旧道に。山陽新幹線の竹原トンネルを越える峠道だ。次第に道は狭まりふたたび、舗装さえしていなければ、いかに山道といった風情に。  
きのう、西野までとしたのは正解だった。ここまで越えた二つの峠は街灯もない。あのまま歩き続けていたら途中、日も暮れたにちがいない。危険きわまりなかった。  
峠から、白鳥山だろう、ぼつんとごちんまりとした山容が、近景の山道とも相俟って、情趣深く見える。やがて下り坂の向こうに、西条の市街地が。  
西条市街地を抜ける旧道を西へ。途中、国道と交わるが、友待橋でふたたび旧道へ。川を渡り、田を抜け、きょう三つ目の峠道へ。断崖に連なるかな住宅街の坂道を登る。やがて飢坂に。舗装されていない、土も露な小道。これこそ本当の山道だ。俄然、気分も盛り上がる。きょう、三たび汗だくとなって歩む。峠

を越えると、新興住宅街らしき中に出た。  
そこから、思っていたより、八本松駅は遠かった。雲行きが怪しい。きょうの宿泊先、東広島教会(ナミユール・ノートルダム修道女会)に辿り着く頃、雨となった。  
3月9日(水)八本松―広島:約27km

午前6時。きょう、修道院ではミサがない。朝の祈りのみ。  
生憎の雨、しかも本降り。だが、少しでも前進しておきたい。  
地図を遺失。回収するも一時間余りのロス。出発が午前10時半過ぎとなる。  
土曜日に尾道まで共に歩いたFさんが一緒。「サンティアゴ・デ・コンポステラの道を歩くためのトレーニングとして、足手まといでなければ」との申し出。今夏を目指してのこと。大山峠は、舗装されてい

「この憲法では日本を守れないから?」「日本カトリック司教協議会会長の高見三明大司教は、平和旬間にあたって7月12日の談話の中で、安倍晋三首相の「憲法9条に自衛隊の存在を明記したい」という考えに対して懸念を示しています。  
「これまで『自衛隊のため必要最小限度を越えない実力』を有する部隊と説明され、防衛予算や軍事行動に厳しい制約を課せられていた自衛隊は「軍隊」となり、『陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない』と定める第9条第2項が効力を失うことになり

かねない」と。  
憲法前文や9条に謳われる平和理念と安全保障の現実の間で、人々は迷っています。その背景には日本全体を包む不満や不安があります。人間は不安を感じると、その裏返しとして勇ましい態度を取りたくなり、不安を一気に払しょくしてくる何かすがり付こうとします。しかし、例えば西部劇で「腰抜け!」と挑発されて勇ましく最初の一発を撃つた人は生き残れるのか?それはわかりませぬ。むしろ「おい、みんな銃を降ろせ」と言う勇氣こそ必要で、それが先の大戦への反省です。

午前6時。きょう、修道院ではミサがない。朝の祈りのみ。  
生憎の雨、しかも本降り。だが、少しでも前進しておきたい。  
地図を遺失。回収するも一時間余りのロス。出発が午前10時半過ぎとなる。  
土曜日に尾道まで共に歩いたFさんが一緒。「サンティアゴ・デ・コンポステラの道を歩くためのトレーニングとして、足手まといでなければ」との申し出。今夏を目指してのこと。大山峠は、舗装されてい

ない、山道らしい山道。雨にぬれても気分は良い。峠越えに約一時間を要す。  
その後の国道は酷かった。雨足はさらに強まる。それにも増して、大型輸送車が飛ばして走るため、跳ね上がる飛沫が凄まじい。さんざんぶちまけられた。  
さすがに、瀬野に着く頃には這々の態。両足および左右の脛の痛みがこたえる。だが瀬野からの旧山陽道は、車両の往来がぐつと減少、歩行が楽に。おまけに雨足も次第に弱まる。海田に入る頃、雨上がる。  
海田からは旧国道2号線(現164号線)を行く。  
マツダ本社前を過ぎ、大州で高架をくぐると、やがてマツダ・スタジアムが目の前に。  
午後6時半過ぎ、幟町教会着。出迎えてくれたヴィタリ神父、「3日に到着と聞いていたけど、ずいぶんゆつくりだったね」。いたずらっぽい笑顔に優しい眸を見る。  
(続く)

信仰に入った私たちが、日々祈り行動しなければ、いただいた信仰の命は失われます。つまり私たちの信仰は私たちの生き方にかかっています。  
「わたしたちの罪ではなく教会の信仰を顧み、おことばの通り教会に平和と一致をお与えください」とミサ毎に祈るように、神さまの導きを願っています。  
(本村裕之)

定例会の案内  
日時 (毎月第3土曜日)  
8月19日(土曜日)  
13時~15時  
場所 教区本部  
内容 ①主の祈り②情報交換③脱原発の思想とキリスト教